

【開通1年後】日本海東北自動車道

このうらにかほ
金浦IC～仁賀保IC

～にかほ市両前寺が開通して

(平成24年10月27日開通)

- ・救急搬送ルートとして定着
- ・広域的な物流交通の効率化を支援
- ・国道7号の渋滞が緩和し定時性向上



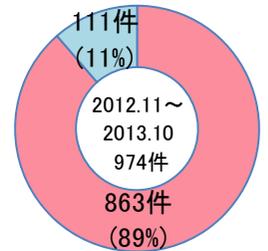
① 搬送時患者負担の少ない日東道を利用

・にかほ市からの総搬送件数 974件のうち、863件(89%)が日東道を利用、救急搬送の主経路として定着。

▼にかほ市象湯町から救急告示病院までの救急搬送ルート



▼搬送実績 (にかほ市消防本部ヒアリングより)



■ 日本海東北道を利用 □ 日本海東北道以外を利用

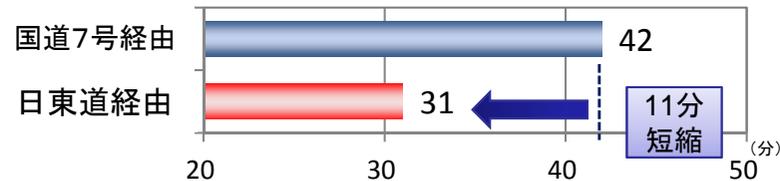
救急搬送の約90%が日本海東北自動車道を利用

- ・一般道路では、加減速により頭に血が上り血圧が上昇し、患者に負担がかかります。高速道路が出来て救急搬送の状況は格段に良くなっています。
- ・命に関わる現場では1分1秒をあらそうので、開通による時間短縮は大きいと思います。

(にかほ市消防本部ヒアリングより)

【参考】高速道路の延伸により、にかほ市(象湯町中心部)から由利組合総合病院(二次医療施設)までの所要時間が 42分→31分に。

▼にかほ市象湯町中心部から由利組合総合病院までの所要時間(ピーク時)



▼高速を走行する救急車両



開通1年後の日本海東北自動車道

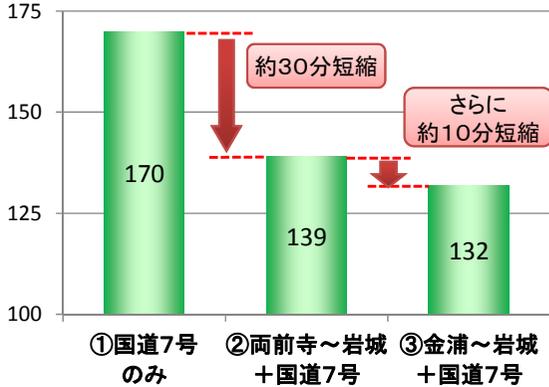


日本海東北自動車道の開通による効果

② 日本海ルートにおける物流の効率化を支援

- ・高速道路ネットワークの延伸により、**速達性や信頼性が向上し、安定した広域物流ルート**を構築。

▼鶴岡市から秋田市までの所要時間の変化
(下り、ピーク時、無料区間経由)



資料: 市役所間の所要時間(高速道路は無料区間のみ利用)。
①: H24民間プローブデータから算出(4～6月、平日)。
②: H24民間プローブデータから算出(4～6月、平日)。
③: H25民間プローブデータから算出(4～6月、平日)。

▼日本海東北自動車道における整備状況の変化



【Topic】物流への効果と期待 (運送会社ヒアリングより)

＜山形県鶴岡市から秋田市へ石油類を輸送＞

- ・開通前より**所要時間が10分位短縮し、渋滞の心配が減少した。**
- ・信号待ち等による停止発進が減少し**ドライバーへの負担が減った。**
- ・**未開通区間の早期整備を希望します。**

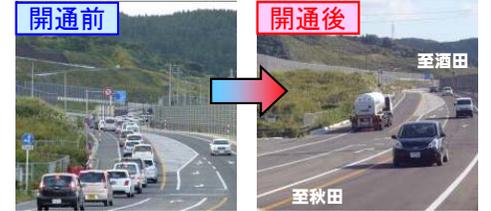
＜秋田市から山形県庄内町へセメント類を輸送＞

- ・開通前よりも**所要時間が読めるようになったため、配車に余裕が出来、急な注文に対応できるようになった。**

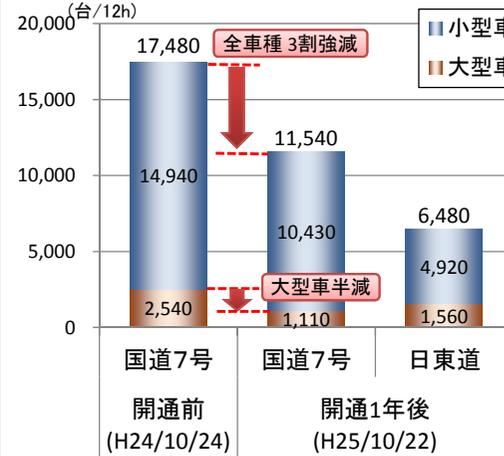
③ 渋滞の大幅緩和、地域交通の定時性向上

- ・開通後は**国道7号の交通量は約3割減少、大型車は半減。**
(開通前は仁賀保前田交差点で渋滞発生)
- ・**仁賀保前田交差点の渋滞長、通過時間が最大で90%減少。**

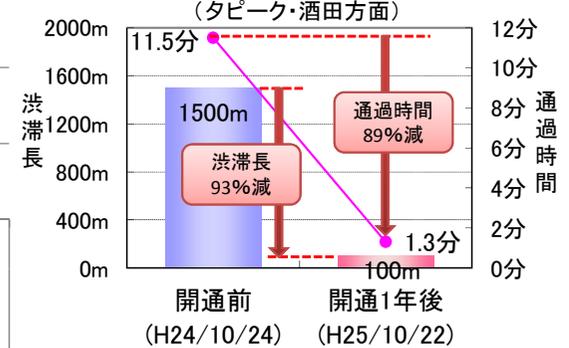
▼仁賀保前田交差点の変化



▼昼間12時間交通量の変化(仁賀保IC～金浦IC間)

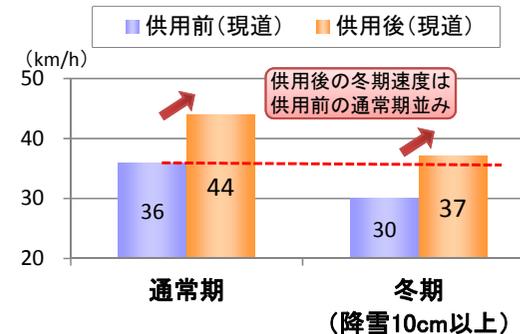


▼仁賀保前田交差点における渋滞状況の変化(タピーク・酒田方面)



- ・**渋滞緩和により現道の速度も向上。特に、速度が低下する冬期においても効果を発揮。**

▼金浦IC～仁賀保ICにおける走行速度の変化(下り、朝7時台、平日)



◆地域の大切な足である路線バスの定時性が向上

- ・開通前の遅れは、**ピーク時間帯で30～40分程度(通常期)。**
- ・**冬期はさらに遅れていました。**
- ・**仁賀保地区の朝夕の混雑は大幅に改善した**と思います。



(バス事業者ヒアリングより)

資料: 民間プローブデータから算出(国道7号経由)。
・通常期:(供用前)H24年4～6月、(供用後)H25年4～6月。
・冬期:(供用前)H23年12月～24年2月、(供用後)H24年12月～25年2月。ただし、日降雪10cm以上の日に限る。